

二部地区活性化だより

野上川の風

発行
二部地区活性化推進機構

編集
総務部会

事務局

T689-4233
日野郡溝口町二部1562-1
二部公民館内
TEL・FAX 0859-62-7159



●間地地区ワークショップ



集落の将来像

その集落の

五年先、十年先を

話し合って 見ませんか

シュミレーションして見ませんか

集落も 個戸も 変わります

采るときも その逆も

必ず訪れる その時に

備える手だが 今欲しい

みんなで 知恵を出し合って

合意で描く 設計図

それに向けた 行動を

できる事から 始めよう

さきごろ、間地では村づくりのワークショップ（研究集会、講習会）を行いました。集落の将来像を語り合い、村づくり活動が動き始めています。

平成十六年度 委員総会の開催

六月六日委員総会が開催され、平成十六年度の事業計画並びに予算が決定されました。引き続き、村づくり講演会がされ『上菅のむらづくり』と題して、日野町上菅 小谷博徳氏（元日野産高教員・上菅ふるさと邑代表）の講演をききました。

▼平成十六年度事業計画▲

本年十二月をもって溝口町の歴史は終了し、新年から新生「伯耆町」が発足します。

行政の枠組みは変わっても、私達が生まれ育った二部地区は、私達にとってなにもにも替えがたい大切な永遠の故郷です。

この故郷の活性化に向けて、地域住民各位の意向に沿った斬新な事業展開を図ります。

●総務部会

- 一 会報「野上川の風」年二回発行
- 二 先進地視察（県外で一泊を予定）
- 三 むらづくり講演会の開催
- 四 郷土出身者との交流イベント開催

●産業振興部会

- 一 ソバ及び特産作物の展示園設置
- 二 山野草の実証展示
（オキナグサ・カンアオイ・ヒガ
ンバナ）
- 三 集落営農推進研修

●住みよい環境部会

- 一 上下水道事業の促進
- 二 合併処理槽の普及（分散集落）
- 三 二部谷風景の写真コンテスト実施
と発表会
- 四 ゴミ減量作戦のPR

●趣味と生きがい部会

- 一 たたらまつり、多々楽学園の支援
- 二 カメラ同好会の育成と撮影会実施
- 三 園芸講習会の開催

●健康スポーツ部会

- 一 町民運動会二部地区大会への協力
- 二 二部札所巡礼ウォーキング開催
- 三 健康講演会の開催

●福祉ボランティア部会

- 一 高齢者、障害者への支援活動
- 二 青少年健全育成及び学校行事への
協力
- 三 道路・河川一斉清掃の実施
（五月・十一月の二回）
- 四 河川ヨシ刈りボランティアの実施

平成15年度収支決算書

収入総額 623,951円
支出総額 383,848円
差し引き 240,103円

→ 翌年度へ繰り越し

収入の部

科 目	決 算 額	摘 要
会 費	188,500	377世帯x500円
特 別 会 費	0	
補助金・交付金	394,000	県・町補助金
繰 越 金	41,448	前年度繰越金
雑 収 入	3	預金利子
合 計	623,951	

支出の部

科 目	決 算 額	摘 要
会 議 費	13,665	役員会費
事 業 費	339,763	道路・河川クリーン作戦 ヨシ刈り事業 会報（6号・7号）印刷費 赤ソバ試食会費 カメラ初心者講座 飾り南瓜種子代 瓢箪苗づくり委託料
視察研修費	19,620	先進地視察（25名参加）
事務局費	800	郵送料
雑 費	10,000	普及所退職職員賃別
予 備 費	0	
合 計	383,848	

16年度収支予算書

収入総額 596,000円
支出総額 596,000円
差し引き 0円

収入の部

科 目	予 算 額	摘 要
会 費	200,000	400世帯x500円
特 別 会 費	0	
補助金・交付金	150,000	県・町補助金
繰 越 金	240,103	前年度繰越金
雑 収 入	5,897	預金利子他
合 計	596,000	

支出の部

科 目	予 算 額	摘 要
会 議 費	30,000	会議費
事 業 費	340,000	会報発行（8号・9号） ソバ展示園関連費 道路・河川ボランティア活動費 二部谷写真コンテスト・他
視察研修費	70,000	先進地視察費
事務局費	5,000	消耗品・その他
雑 費	5,000	雑費
予 備 費	146,000	
合 計	596,000	

●福居 藤田常雄

社訓「忠恕」(筆者注　ちゅうじょ。まごころをつくすことと他人をおもいやること。また、真心からの思いやり、論語から)顧客優先の農園経営とし、コンセプトを!①失敗から学ぶ②プラス思考③「苦」、「無」は宝。工夫、アイディア、技術がエネルギーを生むの源泉としておられる。この中で、失敗する事により新たな挑戦が出来、発見があると話された。

農場の運営は、六〇%がもぎ取り持

①心を売る。②オンリーワンのもの。
③安全、高品質、わけあり商品、安価
(産地高は絶対避ける。経営努力、省
力化により)④付加価値をつける。

二十一世紀は農業の世紀であり、農業により癒しが求められる時代と結ばれた。

●福島
細田朋子

四月二十六日朝八時、二十六名の参加者とバスにのり出発、最初は広島県三次市平田観光農園（平成十五年度日本農業大賞受賞）に着きました。

平田観光農園の平田さんから『果樹を活かした魅力ある村づくり』と題した講演を聞きました。成り立ちは平田さんのお父さんがりんご1haからの始まりだったそうです。平田さんは鳥

正社員九名、パート、シルバーを使
つて経営されており、また新しいもので
なく古いもので再利用し、建物は社員
が建て、コスト低減に努めて居られま
した。農園内も手入れが行き届いてお
りました。

次に、甲奴郡総領町に行き、「過疎を逆手に取る」で有名な町を視察しました。

町がダム建設のため、田畑、住宅がなくなり、残された少数の方で（癒香の杜）と呼ばれる施設をつくり、毎週日曜日の午前中、喫茶コーナー、農産物、特産品を販売されており、人間社会学研究所長 和田芳治さんのお話を聞きました。とてもユーモアのあるお話で、歌もあり、お話を聞いている間にすぐ時間が経ってしまいました。

広い土地には、家を離れても何時までも残るようにと石碑が並んでおり、それぞれの思いが刻み込んでありました。

視察を

さして頂
きます度
に、少し
でも活性
化に近づ
いて行く
ことを願
いながら
帰路に着
きました。



平成十六年

二、一九 郡社会教育大会（日南町）

ける。

九 会報第七号発行配布

一七 趣味の会カメラ初心者講座

四、上 おもちや南瓜種子配布

一八 道路、河川一斉清掃

広島県平田農園、総領町

三
一
三

倉吉市・中田部会長出席

二九 集客非水説明会

役員会（総会文策）

三
村づくし講演会
河川草刈見物見

三〇 (福岡三部)

七、
一、
放棄粗大二三處理打合會
(與二三處理、打合)

二 集落排水処理施設見学会

打合せ

八、二二 集落排水通水式

二部谷出身者からの提言

そばとの出会い

● 山小屋上代 椿庵
庵主 仲田 春雄

そば屋を始めて丸八年を迎えようとしている。

息子に店を譲り私は故郷通いをして、西部地震の後一年余りかけて増築して、昨年の秋に、隠れ里のそば処「椿庵」をオープンした。その一室でペンを取っている。小屋から見える周りの景色、澄み切った美味しい空気、特に頂上に白いものを戴いた大山の遠望、どれをとっても若い頃には感ずる事のできなかった素晴らしいものである。



そば処 椿庵

こんな故郷を何故捨てたのかとふとその頃を思い起こして見る。昭和三十四年の初秋の事である。これからは車の時代が来るであろうと思い自動車学校へ入り一枚の免許証をとる。その免許証が私の人生を変えた。人生には様々な出会いがある、人々との出会い、物との出会い、好い出会い、悪い出会い、その中に一生を左右するような出会いもある。私の人生を変えた初めの出会いが、自動車学校で出会った洋服屋の親父である。彼のお陰でその後三十五年間洋服屋をやらせていただいた。今は亡き親父に心から感謝をしている。

二番目の出会いはゴルフである。ゴルフのお陰で財界の方々と出会い何とか無事に洋服屋を続けることが出来た。三番目の出会いが「そば打ち」である。元来そばが大好きで、月何回か、渡の「平田屋」まで足を運んだものである。十二三年前に溝口の大時計店の主人に手ほどきを受けたが、打てば打つ程難しくなりついにそばの虜になつてしまふ。六十才を期に残りの人生を自分で作ったものがどこまで通用するか賭けて見ることにした。

素人なのでまず「舌」を養うために全国のそば屋を食べ歩いた。

特に中部、関東方面へ山陰では味わったことのない「そば」に出会いその触感和喉越しの良さに感動し、今の「そば処上代」を開店することにした。店名は故郷を思い命名した。

「そば」を通して、また色々な方と

の出会いが出来た。中でも人間国宝の十四代酒井田祐右衛門さん、世界一のソムリエ田崎真也さん、脚本家の倉本聰さんは、二十余年余り前のテレビドラマ「北の国から」を見て、私が故郷に十二年余りかけて山小屋を作るきっかけになった人での出会いは大変に嬉しかった。「旨かった」と一言書き残していただいたのが私の小さな宝物になっている。今ではそば打ちに出会って本当に良かったと心から思っている。

今後は、私も「椿庵」と共に余生は上代で過ごしたいと考えておりますので故郷の活性化に付いて私なりに感じたことを少し述べて見たいと思います。

私の知人で「普福元気邑」の小谷博徳さんと先日お会いして元気邑の施設を見せていただいた、大変に立派な施設で驚いた。中に入ると丁度味噌作りの最中で、女性ばかり十名余りで楽しそうに作業をしておられた。彼に運営の内容を聞いて見た、女性に時給七〇〇円を払っているとの事、味噌は七トンも仕込むそうです。その他にこんにやく芋を栽培し手作りこんにやく、「元気邑」ブランドの手作り豆腐も売っている。売上げも年間六〇〇万円余りもあるとの事。売上げの方法は口こみでほとんど町内だそうです。そこで上代ではどうかと考えてみる。

幸い素晴らしい施設が出来ている、そこで、赤そばあり、手作り豆腐ありそれに「たこさん」ブランドを付けて売り出せば必ず口こみで売れると思

ます。多少でも手間賃が入れば皆に元気が出て活性化につながるではなからうかと私は考えます。まだまだ色々なアイデアはありますが長くなりますので、又皆様方と酒を酌み交わしながら語り合う中で良い発想が生まれて来ると思っています。

ファーストフード全盛の世の中を手間暇かけて一つでもスローフードに変えて一人でも多くの皆様方に健康的な田舎の良さ、手作りの良さを味わっていただくために地域の皆様が仲よく心からお互いを思いやり一致協力して楽しく物事をやっていただくことが、地域の存続のためには必要なことではないでしょうか。末永く素晴らしい故郷であることを念じながらペンを置きます。※この原稿は第七号のために寄稿して頂いたものですが、紙面の都合で今号に掲載させて頂きましたこと、お詫びもうしあげます。

あとがき

この夏は、近年に無い猛暑の夏でした。天候に恵まれ、農作物の豊作が期待されて居りましたが八月末から、台風十六号、十八号の襲来で、農作物に甚大な被害を受けました。九月に入り稲作も収穫の時期になりましたが、台風による倒伏と長雨により刈取りが難渋しているようです。

町村合併も順調に進み愈々二〇〇五年一月一日を以て「伯耆町」が誕生します。

新しい町に期待したいと思

